



春は別れや出会いが入り混じる時期、仲間との別れや出会いに心が揺れ動く事も多いのではないのでしょうか。そこで今回は“つながる”をテーマに本を選んでみました。あなたも必ずどこかでだれかと何かでつながっていることを感じられるのでは・・・

報告 第4回
百人一首かるた大会

1月27日(土)に、百人一首かるた大会がありました。小学生から一般の方まで20人が参加、府中多摩かるた会連盟の選手の模範試合を見た後、5人1組で源平戦トーナメントを楽しみました。



お知らせ
きたまちYAサポーター

☆今年度のきたまちYAサポーターの活動は3月18日(日)の“おもひDEトーク”で終了です。来年度もまた新メンバーを募集して5月から活動を始める予定です。あなたも参加してみませんか♡♡♡

●今月のテーマ●
つながる
~どこかでだれかと~

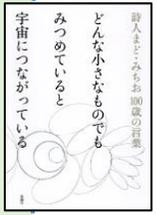
『蜘蛛の糸・杜子春』
芥川龍之介/著 新潮社
B913.6/アクタ
亡者で渦巻く地獄と、お釈迦様のいる天国を“つなぐ”、細い細い蜘蛛の糸をめぐる物語。



『くまのパティントン』K93/ボ
マイケル・ボンド/作 福音館書店
暗黒の地ペルーからやって来た移民クマは、パティントン駅でブラウン夫妻と出会います。やることなすことトラブルを起こしながらも、ブラウン一家の家族の一員としてつながっていく心温まるお話です。

『どんな小さなものでもみつめて
いると宇宙につながっている』
詩人まど・みちお100歳の言葉

まどみちお/著 新潮社 914.6/マド
104歳で死去されたまどさん。生涯、詩人としてのまなざしや感性を持ち続けたまどさん。どんな小さなものでもみつめていると宇宙につながっているという言葉はまどさんだから発せられたのだと思います。



『宇宙のみなしご』

森絵都/著 講談社 K913/モリ
屋根の上で毛布をかぶって手をつなぎあつた4人の“宇宙のみなしご”たち。「つらいときこそ心の休憩ができる友だちを見つけて」という作者の想いが伝わってきます。



『ボランティアバスで行こう!』

友井羊/著 被災地へのボランティア活動を通じて人がつながっていくお話です。東日本大震災が起こって今年で7年目。未だに課題は個別化し深刻化しています。“恩おくり”という言葉、とても素敵です。



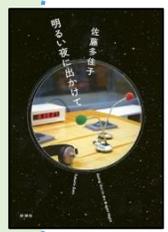
『ツナグ』

辻村深月/著 新潮社 B913.6/ツジム
一生に一度だけ、死者との再会を叶えてくれるという「使者」。失ってから初めて気付く“絆”がこの本には書かれています。日常の中の“絆”を見つめ直してみませんか?



『明るい夜に出かけて』

佐藤多佳子/著 新潮社
913.6/サトウ
深夜ラジオの夢がハンパない!辛いことから逃げ出したくなる時もあるけれど、自分の好きなものは“好きだ”と言い続けたい。そこから生まれる“つながり”がここにある。



『手つなぎラッコ』

まりさ/[編]著 アспект 489
皆さんはご存知ですか?ラッコは流されないように手をつないだり、海草をまきつけたりするのです。そんな可愛い姿がいっぱいの1冊です。



『友だち幻想』

人と人の〈つながり〉を考える
菅野仁/著 筑摩書房 K36
友だちは何よりも大切だからこそ傷つき悩みます。さまざまなキーワードから問題を整理し、上手に人との“つながり”を築けるようになる本。



岩手県花巻市の老舗デパート“マルカンデパート”が閉店と聞いて、地元の高校生達が立ち上がりました。さまざまな人達を巻き込み、マルカン大食堂が再び開店するまでの記録です。